元町グループホーム（愛知県豊橋市）

認知症の人の「動きたい」を叶える

転倒時の衝撃吸収マット活用で安心な環境づくり

佐野ひとみ
ユニットリーダー

医療法人豊岡会「元町グループホーム」（愛知県豊橋市、内藤きみ子施設長）では「一人一人の人生が輝くように！」を理念に、利用者が希望する生活を、自立を支援する環境を整えて実現に繋げている。

昨年11月に入所したAさんは要介護4で、ほぼ全介助だが、積極的に食事を摂り、日中は職員の手引き歩行による介助でトイレでの排泄を実現するなど活動意欲があった。しかし、夜間に一人でベッドからずり落ちてお尻を引きずりながら移動することが多く、ケガのリスクが高かった。

センサーを設置するとともに、足元にベッド用のマットレスを敷いて対応していたが、Aさんはセンサーを避けて移動し、適切なタイミングでの駆け付けが困難だった。

布団の横にスラージュ（中央左側の黄色いマット）を敷き、活動を妨げずにケガのリスクを減らす

ユニットリーダーの佐野ひとみさんは「転落時の衝撃吸収のために設置したマットレスは沈み込みがあり、むしろふらつきが増し転倒のリスクが高くなってしまった」と話す。

また、夜間介助に訪れた職員がマットレスにつまずく恐れや、ベッドから車いすへの移乗介助時にはマットレスを移動させる必要があり、負担が増えていたという。

最終的にベッドの利用をやめて床に直接マットレスを敷いていたが、その後もAさんはマットレスから降りてお尻を引きずりながらの床での移動を繰り返していた。

「Aさんは日中も活発に活動し傾眠もないことから、夜間に活動することは本人の意思やこれまでの生活リズムだと分かった。高齢者は小さな衝撃でも骨折のリスクがあり、本人の『動きたい』をどう安全に実現するかを考えていた」（佐野さん）

活動や介助動作を妨げない薄さで、しっかり衝撃吸収

そこでイノアックリビングが開発・販売する床に敷くことで転倒時の衝撃を吸収する「スラージュフロアクッション」を導入した。厚さは3㎜と一般的な衝撃吸収マットよりも薄く、車いすはもちろん、スリッパやすり足、杖を使用した場合でも容易に歩くことができて躓きにくい。

介護帽にも使用される、衝撃吸収の特性がある高機能ウレタン素材「PORON（ポロン）」を採用し、両面防水加工でアルコール消毒や清拭が可能。裏面はずれにくい素材で、硬い床やフローリングにも接着剤無しで設置でき、設置場所の変更も簡単。

扉の開閉時に鈴がなるように工夫。
自然な見守り、駆け付けに繋げる。

また、転倒によるケガのリスクが減ったことで、駆け付ける職員の精神的な負担軽減にも繋がっている。

「コロナ禍の外出自粛で、下肢筋力が低下している人もいる。ADLを落とさないためにも転倒・転落によるケガのリスクを減らし、入所者が当施設での日常を少しでも楽しく過ごしていただけるよう支援していきたい」と語った。

スラージュに関する問合せはイノアックリビング（☎050・3135・8857）、元町グループホームに関する問合せは（0532・26・1125）まで。

佐野さんは「こんなに薄いのに、転倒時にはしっかりと衝撃吸収できるというのがまさに求めている物だった。Aさんのご家族からも『ケガをしないためにもぜひ！』と購入を決めて頂いた」と導入の経緯を話す。

スラージュを居室に設置したことによるAさんの不穏はなく、夜間もスラージュの上をスムーズに移動できているという。